

地理学視点の福岡：都市圏成長の背景：福岡地理学会設立75周年記念出版

阿部，康久
九州大学大学院比較社会文化研究院：准教授

磯，望
西南学院大学：名誉教授

芳賀，博文
九州産業大学経済学部：教授

<https://hdl.handle.net/2324/7388878>

出版情報：pp. -235, 2024-11-20. 有限会社 花書院
バージョン：
権利関係：



第 13 章

福岡都市圏の宗教文化と現代社会

藤 村 健 一

1. はじめに

福岡都市圏では各所に著名な社寺が存在しており、その大半が古い歴史を有する。こうした社寺も、現代の社会変化や宗教界の変化の影響を受けている可能性がある。山中弘（2020）は、「制度宗教」の弱体化と「軽い宗教」の拡大が現代宗教の趨勢であると述べている。制度宗教とは、明確な教義と実践、それを維持・拡大するための組織と建造物、それらに自覚的に帰属する信徒を有する宗教集団のことである。一方の「軽い宗教」とは、市場との相互交渉の中で伝統宗教が希釈、断片化され、現代人のライフスタイルに適合するように変容したものと定義される。山中（2016, 2020）はその例として、近年の宗教観光やパワースポット、御朱印の流行を挙げている。

岡本亮輔（2020）も概ね同様の認識を持つ。岡本は「組織宗教」が衰退する一方で、2000年代にパワースポットや御朱印などの宗教現象が流行したことを指摘する。とりわけパワースポットブームは現代宗教の「軽さ」を顕著に示す例であるという。これらの流行現象は、大半が伝統宗教の社寺や聖域を舞台に展開している。このことは伝統宗教の活性化を示唆するようにさえ思える。ただしこれらの多くは、宗教組織や宗教者の発信から始まったものではなく、マスメディアの中で生み出され展開した世俗優位の現象である。

それゆえ、伝統宗教の側が「軽い宗教」をどのように認識し対処しているかが注目される。山中（2017, 2020）によれば、「軽い宗教」はマスメディアや世俗的な文化産業によって商品化され、深く重いコミットメントを望まない消費者へと提供される。しかし宗教が一方的に商品化されているわけではなく、伝統宗教の側も一般の人々の好みに合うようにみずからの宗教を扱いやすく加工し、市場に参入しているという。こうした認識は、「宗教と観光の融合」が起きているという岡本（2015:5）の主張と整合する。岡本（2020）によれば、多くの社寺が観光の一環で訪れた信仰なき訪問者を受け入れはじ

め、パワースポット的な言説と積極的に重なるようとしている。

しかし筆者はこれまでの調査経験から、宗教者は経済的価値よりも宗教的価値を重んじており、みずからの信仰や宗教空間がビジネスの文脈で語られることを好まない傾向にあると感じる。岡本（2015：171-173, 2017）も、社寺の境内地がパワースポットとされることに対して伝統宗教からの反発があることを指摘している。

筆者は福岡都市圏に所在し、パワースポットや観光地とされている神社と仏教寺院のいくつかを対象として、2023年11～12月に神職や僧侶への聞き取りや現地調査を行った。これらを通して「軽い宗教」の現状とこれに対する宗教者の認識を明らかにし、現代の伝統宗教による社会変化への対応と宗教空間への意味づけについて考える。ただし本章では紙幅の都合上、寺院の調査結果については割愛する。

2. パワースポット

「パワースポット」という言葉は2000年代以降、「何となく癒される場所、元気がもらえる場所、幸運に恵まれそうな場所」といった意味で用いられている（岡本2017）。パワースポットには、有名な社寺や聖地が単にパワースポットと言い換えられた例や、社寺の側がパワースポットのイメージをある程度受け入れ能動的に反応した例、特異な景観や自然環境などの非宗教的な場所がパワースポットとして提示された例がある（岡本2015:151-168）。パワースポットとされる場所の多くは従来の社寺や聖地だが、この言葉は伝統の重さや宗教臭さを感じさせない。そのため特定の信仰を持たない観光客でも気兼ねなく訪問でき、一般向けの旅行ガイドブックや雑誌でも取り上げやすい。ゆえにパワースポットとみなされることは集客に有効である（岡本2017）。

パワースポットブームは社寺を舞台としつつ、マスメディアや自称スピリチュアリストなど社寺とは組織的に繋がらない人々により牽引されている。そのためパワースポット訪問者は従来の参詣者と異なり、社寺側が求める行動や考え方をほとんど共有していない。パワースポットでは、訪問者が神木や巨石などに触れたり抱きついたりしてパワーやエネルギーを貰うことがあり、社寺の困惑を招いている。一方、社寺でパワースポット訪問者向けに新たな授与品が頒布されたり、境内に新たな装置が設置されたりすることもある。これらは伝統宗教が消費者（参拝者）の好みに合わせ、みずからの宗教

表 13-1 書籍・雑誌・ウェブサイトで紹介された福岡都市圏のパワースポット

①～②でパワースポットとして紹介されるか、または紹介記事に「パワー」という語句が使われた福岡都市圏の場所。掲載媒体数が2以下の場所は省く。ウェブサイトはいずれも2024年1月8日閲覧。

名 称	所在地	掲載媒体数	名 称	所在地	掲載媒体数
太宰府天満宮	太宰府市	13	南蔵院	篠栗町	6
宗像大社	宗像市	12	志賀海神社	福岡市東区	4
宮地嶽神社	福津市	12	伊野天照皇大神宮	久山町	4
宝満宮竈門神社	太宰府市	9	櫻井神社	糸島市	4
宮崎宮	福岡市東区	8	雷山千如寺大悲王院	糸島市	3
香椎宮	福岡市東区	6	箱島神社	糸島市	3
柳田神社	福岡市博多区	6	桜井二見ヶ浦	糸島市	3
筑前國一之宮住吉神社	福岡市博多区	6	芥屋の大門	糸島市	3

種類	書名、誌名、ウェブサイト名	発行・公開年
① 書籍	『日本全国このパワースポットがすごい!』若月佑輝郎著、PHP 研究所	2010
② 書籍	『風水パワースポット紀行』山道帰一著、メディア総合研究所	2010
③ 書籍	『厄除け・開運・パワースポット ニッポンの神社』流光七奈監修、主婦の友社	2018
④ 書籍	『開運! パワースポット・ガイド 2020』婦人公論編集部著、中央公論新社	2019
⑤ 書籍	『木下レオン吉方位の旅』木下レオン著、東京ニュース通信社	2021
⑥ 書籍	『とにかく運がよくなる最強開運スポットガイド!』木下レオン・村野弘味監修、扶桑社	2022
⑦ 書籍	『御朱印でめぐる福岡の神社 週末開運さんぽ 改訂版』地球の歩き方編集室著、Gakken	2022
⑧ 書籍	『神祕の聖地 聖域 パワースポット 西日本』TAC 出版編集部著、TAC	2023
⑨ 雑誌	『福岡 Walker 2016 1月増刊号』KADOKAWA「ご利益 & 開運ドライブ」	2015
⑩ 雑誌	『福岡 Walker 2017 1月増刊号』KADOKAWA「開運 & パワスポ最強おでかけ案内」	2016
⑪ 雑誌	『KyushuWalker 2018 秋』KADOKAWA「2018 年後半をハッピーに! 最高の開運」	2018
⑫ web	『福岡・パワースポットめぐりの旅』近畿日本ツーリスト https://www.knt.co.jp/meito/sp/fukuoka_shrine/	不明
⑬ web	『【九州】2019 年に行きたいパワースポット 20 選! 恋愛運・健康運・金運アップに!』 じゃらんニュース https://www.jalan.net/news/article/305157/	2019
⑭ web	『思わず行きたくなる! 自然豊かな福岡のおすすめパワースポット』Relux Journal https://rlx.jp/journal/kyushu/49795	2021
⑮ web	『福岡のパワースポット 10 選! 旅行のついでに開運も!』トラベル・スタンダード・ジャパン https://www.travelwith.jp/area/kyushu/fukuoka/topics/post-14089/	2021
⑯ web	『【2022 年最新】福岡県のパワースポットで運氣アップ! 最強ランキング TOP5』 アットホーム https://www.athome.co.jp/town-library/article/122846/	2022
⑰ web	『ご来福しよう! パワースポットが集まる福岡へ! 福岡・大分デスティネーションキャンペーン https://fukuoka-oita-dc.jp/articles/detail/b001d46f-375c-47f7-acf1-a59514f8ee26	2023
⑱ web	『福岡で運氣を上げよう! おすすめのパワースポット 10 選』カラデル https://caradel.portal.auone.jp/post-10717/	2023
⑲ web	『【九州】パワースポットにおでかけ! 運氣の上がる神社 30 選』旅色 https://tabiiro.jp/higaeri/article/kyushu-shrine/	2023
⑳ web	『【2024 年開運】福岡県のパワースポット 3 選! 運氣上昇、上陸禁止の世界遺産、カエル寺』 TABIZINE https://tabizine.jp/article/351303/	2024
㉑ web	『【2024 年版】福岡県最強パワースポット! 神社や自然のパワースポットまとめ』 なるほど福岡 https://www.naruhodo-fukuoka.com/power	2024

を加工している例である（岡本 2020）。

次に、福岡都市圏のパワースポットについて検討する。書籍や雑誌、ウェブサイトでパワースポットとして掲載された福岡都市圏の場所を表 13-1 に示す。表中の書籍のうち①の著者は「スピリチュアル・サクセス・ライフ・コンサルタント」、②の著者は風水師、③・⑤・⑥の著者・監修者は占い師を称する。雑誌はいずれもタウン情報誌である。ウェブサイトのうち⑬・⑭は主にタウン情報を扱っており、その他はいずれも旅行関係のサイトである。3つ以上の媒体で取り上げられた場所は全部で 16 か所だが、うち 12 か所が神社である。仏教寺院は 2 か所（南蔵院・雷山千如寺大悲王院）、自然景観も 2 か所（桜井二見ヶ浦・芥屋の大門）にとどまる。太宰府天満宮や宗像大社、宮地嶽神社、宝満宮竈門神社のように、パワースポットブーム以前から知名度が高く、観光客も訪れる神社が上位にある。そこで次節以降、これら 4 つの神社に注目し、パワースポットや観光地としての意味づけや神社側の認識・対応について分析する。

3. 太宰府天満宮（太宰府市）

太宰府天満宮（図 13-1）は菅原道真公を祀り、学業成就・合格祈願の神社として知られる。太宰府天満宮の記事は表 13-1 の③、⑥～⑨、⑪、⑭～⑳に掲載されている。これらの記事には、従来の定型的な神社紹介の中に「パワースポット」という語を挿入しただけの文章や、単に神社を「パワースポット」と言い換えたに過ぎない文章が目立つ。ただし、表 13-1 の⑦・⑧・⑪・⑳は、境内奥の山の上にある天開稲荷社をパワースポットとして注目する。同社は、太宰府天満宮の公式ウェブサイトによれば「九州最古のお稲荷さん」として親しまれ、天に道が開け運氣が上昇する神社として信仰を集めている¹⁾。⑦は天開稲荷社に 1 頁を割き、「天に開かれたお社にパワーを頂く」「奥の院」がパワースポットとして話題を集めています」などと紹介している。奥の院とは、天開稲荷社社殿の裏の石で囲まれた小祠である。この社殿の脇には「天開水」という看板と蛇口があるが、これについても「飲むことでパワーを頂ける「天開水」と触れている。

筆者は 11 月の土曜日の日中に太宰府天満宮を訪問した。本殿は大勢の参

1) <https://www.dazaifutenmangu.or.jp/keidaianai/tenkaiinarisha>（2024 年 1 月 8 日閲覧）

拝客で賑わっていたが、そこから天開稲荷社へ向かう参道に流れる人も多く、天開稲荷社や奥の院も参拝者が絶えなかった。この参道に面した斜面に巨樹があるが、参道をゆく人々が次々と斜面を登ってこの木の傍に立ち、幹に手を当てるのを目にした（図13-2）。彼らはこうして巨樹からパワーを得ようとしているように見えた。この木の前には荻原井泉水の句碑が立つが、木そのものは訪問時点では天満宮の境内図や公式ウェブサイト、Google マップには載っておらず、各種出版物での掲載も確認できない。なお、案内所で配布している境内図や公式サイトには神木の飛梅や大樟が掲載されているが、これらは柵に囲まれ、参拝者が手を触れることはできない。

このように、太宰府天満宮境内のパワースポットを参拝する人が少なからず存在する。太宰府天満宮総務広報部長・神苑管理部長の松大路信潔氏によれば、天開稲荷社は以前から参拝者が多かったが、15年ほど前からパワースポットとされ、最近特に増えてきた。松大路氏は、パワースポットとしての評判は神社側ではなく占い師や人々の噂で広がったもので、それほど注目していないと話す。信仰の形態も人それぞれである。神社は神の力で清められた聖なる空間であり、木や水にも霊力があるので、神社がパワースポットとされることもありうる。太宰府天満宮では行政の観光政策に協力しているが、参拝者を増やすための主体的な取り組みや広報は特にしていない。松大路氏は、神社はお参りして元気になって帰る場所であり、参拝者には「来て



図 13-1 太宰府天満宮の境内

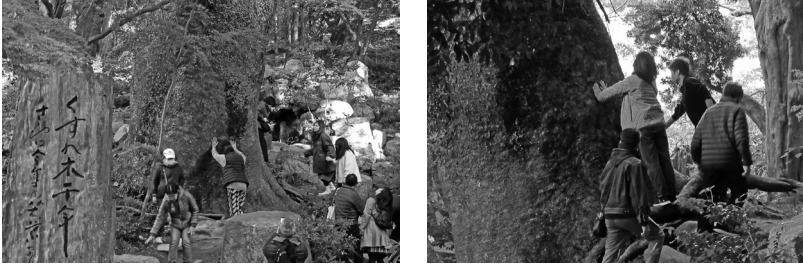


図13-2 太宰府天満宮境内の巨樹に触れる人々（2023年11月筆者撮影）

良かった、また来たい」と感じてほしいが、お店とは違うので、来てもらうためにどうこうするのは違うと語る。

太宰府天満宮では、御札やお守りなどの授与品の頒布（通信販売）や、祈願のオンライン受付の専用ウェブサイト²⁾を設けている。このサイトでは御朱印は扱っていない。サイトには「本来、ご祈願をはじめ、お札・お守りは神社にご参拝して直接お受けいただきますが、諸々のご事情によりご参拝が叶わない方々のために、当宮では、ご祈願および郵送によるお守り授与のお申し込みを承っております」「システムの都合上、当宮の想いと異なる表記（ショッピング等）がございますが、ご理解のほどお願いいたします」と記されている。

4. 宗像大社（宗像市）

宗像大社は、日本神話に登場する宗像三女神（^{たごりひめのかみ}田心姫神・^{たぎつひめのかみ}湍津姫神・^{いちししま}市杵島^{なかつ}姫神）が祭神であり、^{ひめのかみ}田心姫神を祀る^{おき}沖津宮（^{つぐう}沖ノ島）、^{なかつ}湍津姫神を祀る^{なかつ}中津宮（大島）、^{へつぐう}市杵島姫神を祀る^{へつぐう}辺津宮（九州本土）からなる。これらは2017年、ユネスコ世界遺産の構成資産となった。三女神は「^{みちぬしのむち}道主貴」とも呼ばれ、「道」の神とみなされており、交通安全や芸道の神としても知られる。宗像大社の記事は表13-1の①・⑦～⑫・⑯～⑲・⑳・㉑に掲載されている。これらの記事では主に^{へつぐう}辺津宮（図13-3）が扱われる。ここでも定型的な神社紹介をなぞる文章や、神社をパワースポットと言い換えただけの表現が目立つが、①では「傷つき失った自分らしさを復活させてくれる」「物理的に女性の胸を豊

2) <https://dazaifutenmangu-gokigan.jp/>（2024年1月8日閲覧）

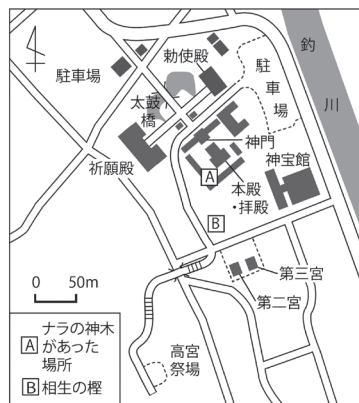


図 13-3 宗像大社辺津宮の境内

かにしてくれるという御利益もあります」など独自の解釈が示されている。

⑦・⑨・⑪・⑰・㉔は、辺津宮境内の奥にある山の上に位置する「高宮祭場」を取り上げている。これらの媒体では、本殿・拝殿よりも高宮祭場の記述が詳しい。高宮祭場は無社殿の古代祭場で、柵で囲われ一般の参拝者は入れない。ここは市杵島姫神の降臨地とされ、周囲を森に囲まれている（図 13-4）。⑨は「絶対に立ち寄りたい、辺津宮最大のパワースポット！」、㉔は「緑に囲まれており、心が浄化される福岡のパワースポットです」と紹介している。⑨・⑫・㉔は「相生の榎」を紹介する。これは境内林の中にある神木で、本殿から高宮祭場へ向かう参道の脇に立つ 2 本のカシである。一方の幹から伸びた枝が、他方の幹と繋がっているように見える（図 13-4）。⑫は「特に人気なのが「相生の榎」と呼ばれるご神木。恋愛成就や夫婦円満のご利益があるとされています」と解説している。

筆者は 12 月の土曜日の日中に辺津宮を訪問した。参拝者の多くは拝殿から高宮祭場を経て、沖津宮・中津宮の分霊を祀る第二宮・第三宮へ至る。高宮祭場には絶えず参拝者がいたが、相生の榎は注連縄や案内看板などが無く見つけづらいためか、立ち止まる人はいなかった。かつて相生の榎には注連縄がはられ、傍に案内看板と賽銭箱があり、柵で囲まれていた。2001 年の社報『宗像』483 号によると、若い女性の参拝者がこの木に良縁を祈願し成就したと明かしたことから、若い女性を中心に「縁結びの御利益があるので」と話題になった。これを知った神社は、参拝しやすように環境を整備し、同年に「相生の榎」の命名式を斎行した。



図 13-4 宗像大社の高宮祭場〔左〕と相生の榎〔右〕(2023 年 12 月筆者撮影)

権禰宜の宗像崇史氏の話では、ここにお参りする人は多かったが、2023 年に注連縄や看板などの設備をすべて撤去した。神社内で「必要性に乏しい。森は森であり、もとに戻そう」という意見が出たのが撤去の理由である。柵から身を乗り出して木に抱き着く人もいたという。なお、辺津宮の神木としてはこのほか、本殿脇の樹齢約 500 年のナラが知られていたが、これは 2023 年に枯れたため伐採された。

宗像氏は、世間で高宮祭場などがパワースポットと言われているが、神社はそのようなことは言っていないと話す。ただ、パワースポット目的で来てもらうのは構わない。宗像氏は個人的な意見と断ったうえで、神徳にあやかりたいのは分かるが、人様のお庭に勝手に入るのはどうかと思う。境内林の奥に勝手に入っていく人もいるが、参道を外れて森の中に入るのはよくない。お参りをするならマナーを守ってほしいと語る。地域の観光振興には協力したいが、当社は観光神社ではないし、神社としての尊厳は崩せないと述べる。

宗像大社も、授与品の頒布（通信販売）や、祈願のオンライン受付の専用ウェブサイト³⁾を設けている。このサイトでも御朱印は扱っていない。同社では「本来、ご祈願やお守りお札は神社にて直接お受けいただくものですが、新型コロナウイルスの影響により参拝が叶わない方々のために、郵送によるお守りの授与とご祈願のお申し込みを当ホームページ上にて承っております」⁴⁾と説明している。

3) <https://munakatataisha.shop-pro.jp/> (2024 年 1 月 8 日閲覧)

4) https://munakata-taisha.or.jp/about_hetsu.html (2024 年 1 月 8 日閲覧)

5. 宮地嶽神社（福津市）

宮地嶽神社（図 13-5）は日本一の大注連縄・大太鼓・大鈴で知られ、開運と商売繁盛の神として信仰を集めてきたが、近年は「光の道」（図 13-6）でも有名である。宮地嶽神社の記事は表 13-1 の⑤、⑦～⑪、⑬～⑯、⑱、㉑に掲載されているが、これらのうち⑨・⑱を除くすべての媒体が「光の道」に言及している。宮地嶽神社の参道は、海岸から神社の入口に至る約 1.3km の直線道路である。その延長線上に神社の石段があり、最上段付近から参道と玄界灘が望める。毎年 2 月・10 月にそれぞれ約 1 週間、晴天であれば夕日と参道・石段が一直線に重なる。この景観が「光の道」と呼ばれる。⑮では「1 年に 2 回だけ太陽から神社へ真っすぐ伸びる光の道を見ることができ、その道はパワースポットとしても知られています。ご来光を受けると、運を引き寄せられると言われています」と紹介されている。

「光の道」は、2016 年に男性アイドルグループ「嵐」が出演した日本航空の CM で使われ、広く知られるようになった。CM には、メンバー 5 名が境内の石段から「光の道」を眺めるシーンがある。同社は撮影地を公表しなかったが、同年 2 月に放映が始まるとインターネット上ですぐに話題となり、嵐のファンが訪れるようになった⁵⁾。権禰宜の渋谷公誉氏によれば、今でも嵐のファンとみられる女性の参拝が少なくないという。

宮地嶽神社では従来 2 月と 10 月の「光の道」の時期に「夕陽のまつり」を行っており、参拝客は自由に石段に座って夕日を眺めていたが、2016 年から混雑による事故を防ぐため入場制限を実施し、先着順の無料観覧席と予約制の有料席を設けている。2023 年 10 月の夕陽のまつりは 14 ～ 22 日に行

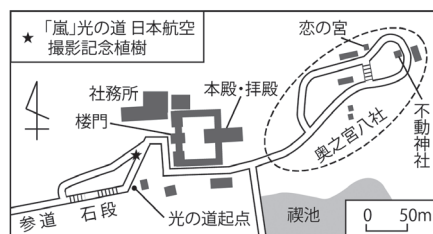


図 13-5 宮地嶽神社の境内

5) 今井知可子 「嵐」 詣でファン続々『西日本新聞』2016 年 2 月 20 日朝刊



図 13-6 「光の道」(2010 年 10 月撮影。宮地嶽神社提供)



図 13-7 宮地嶽神社で夕日を見る人々
(2023 年 11 月筆者撮影)

われ、連日 430 人程度が来場した。神社のパンフレットや公式ウェブサイトには嵐や CM に関する直接の言及はないが、公式サイトの境内図では、石段を登り切った辺りが「光の道起点」とされている。その近くには「「嵐」光の道 日本航空 撮影記念植樹」と書かれた看板と 5 本の桜の木が立っている。渋谷氏の話では、これらは嵐のファンである崇敬者の女性の提案で 2016 年に植樹された。本数は嵐のメンバーが 5 名であることにちなむ。ただし、嵐のメンバーや日本航空関係者が植樹したものではない。

このほか、⑨は境内の奥之宮八社について詳述している。これは不動神社を中心とした 8 つの神社群である。その 1 つである「恋の宮」にはハート形の「恋むすび絵馬」が奉納されている。渋谷氏の話では、もとは別個の扱いだった淡島神社と濡髪神社を 10 年ほど前からまとめて「恋の宮」と呼んでおり、毎年 8 月 7 日には「恋の宮神社例祭」を行っている。

宮地嶽神社では御朱印や御札、お守りなどの授与品を頒布（通信販売）するための専用ウェブサイト⁶⁾を設けている。渋谷氏によれば、神社では御朱印に力を入れており、常に新しいデザインの御朱印を制作している。「光の道特別記念朱印」など期間限定の御朱印も制作し、SNS でも紹介している。2023 年から「風凜まつり」を始めるなど、新たな行事の企画にも注力して

6) <https://miyajidake.shop-pro.jp/> (2024 年 1 月 8 日閲覧)。ここには通販を行う理由の説明はみあたらない。

いる。洪江氏は、多くの人々に神社に来てよかったと思ってもらえるように工夫していると語る。ただ、神社がパワースポットであるというのは人々が言っていることであり、雑誌などメディアで紹介される内容も神社としての見解ではないと話している。

筆者は11月の火曜日に宮地嶽神社を訪問した。平日にもかかわらず石段や拝殿、奥之宮八社には参拝者が絶えない。「光の道」の時期ではなかったが、晴天だったこともあり夕方になっても参拝者が続々と訪れ、「光の道起点」付近には夕日を待つ人が20人以上集まった。「光の道」にはならなかったが、午後4時半頃から美しい夕日がみられ、人々はその景色を眺めたり、石段の最上段から撮影したりしていた(図13-7)。

6. 宝満宮竈門神社(太宰府市)

宝満宮竈門神社は宝満山の麓に鎮座する。古代、大宰府の鬼門にあたる宝満山で祭祀が行われたのが起源で、方除けや厄除の神として知られる。中世には修験道場としても栄えた。現在では縁結びを願って参拝する人が多い。権禰宜の馬場宣行氏によれば、主祭神の玉依姫命たまよりひめのみこと(神武天皇の母)には魂(玉)と魂を互いに引き寄せる(依)神徳があると考えられ、江戸時代より縁結びの神としても信仰されている。参拝者の約7割が女性で、とくに20～40代の女性が多いという。

表13-1の③、⑤、⑧、⑨、⑬～⑮、⑱、㉑が同社の記事を掲載しており、いずれも恋愛や縁結びのパワースポットとして扱う。境内の「再会さいかいの木」は⑧・㉑、「愛敬あいけいの岩」は⑧・⑨が恋愛のパワースポットとして注目する。神社の公式ウェブサイトは、前者について「その昔、神功皇后が宝満山頂に植えられ、親しい人々との再会を祈願したと伝えられる再会の木。この木に向かって、好きな人との再会や、縁結び、まだ見ぬ人との出逢いを祈れば、きっと願いが叶うと信じられています。」と説明し、後者に関しては「目を閉じて、好きな人を想い、あるいは未だ見ぬ人との出逢いを祈り、もう一方の岩に無事に辿り着くことができれば、恋が叶うと信じられています。」と紹介している⁷⁾。ただし馬場氏によれば、これらはパワースポットブーム以前から存在している。

7) <https://kamadojinja.or.jp/keidai/> (2024年1月8日閲覧)



図 13-8 宝満宮竈門神社のおれお守り授与所〔左〕と絵馬〔右〕(2023年12月筆者撮影)

宝満宮竈門神社が恋愛のパワースポットとして注目されるきっかけとなったのは、2012年の「おれお守り授与所」の新築とされる⁸⁾。これは著名なインテリアデザイナーが設計した建物で、淡いピンク色を基調としたモダンな内装となっている(図13-8)。神社には珍しい現代的な建築だが、馬場氏は「100年後のスタンダードになるような現代的なものにしようと考えた」と話す。この新築によって若い参拝者が増えたという。旅行サイト「じゃらんニュース」でも「おしゃれすぎる授与所」として注目されている⁹⁾。ただし、神社としてパワースポットを標榜することはないという。

表13-1の媒体ではほとんど触れられてないが、宝満宮竈門神社は近年『鬼滅の刃』のファンの間で「聖地」とされている。『鬼滅の刃』は2016～20年に雑誌に連載された人気漫画である。出版社は漫画と神社の関連性を否定するが、主人公の姓が「竈門」であることなどからファンの間でゆかりの地とされたようだ。馬場氏の話では、ファンらしき若い参拝者が2019年からみられ、翌年にはコスプレしたファンが大勢訪れた。この頃には『鬼滅の刃』のキャラクターを手描きしたカラフルな絵馬が多数奉納された。神社では以前から、絵馬に願い事を書く若い女性への便宜として、おれお守り授与所にカラーペンを配置していたが、『鬼滅の刃』ファンがこれを用いたことでキャラクターの絵馬が急増したようである。現在ではファンの訪問は一段落したが、コスプレの参拝者もたまにみられるという。

神社では当初、ファンの訪問に対し戸惑いもあったが、静観することにし

8) 鈴木峻「「良縁を」期待もピンク色」『朝日新聞』西部本社版2017年2月24日朝刊

9) <https://www.jalan.net/news/article/676065/> (2024年1月8日閲覧)

た。神社としては、来られる方は歓迎するというスタンスである。ただし信仰の場としての性格は変えたくないで、本殿でのコスプレ撮影は自粛してもらった。神社が『鬼滅の刃』との関係を広報することはなく、これにちなんだ授与品も置いていないが、主人公の服の柄に似た緑の市松模様のお守りが人気である。これに限らず、宝満宮竈門神社のお守りにはカラフルな物が多く、表13-1の⑬や⑮でも「オシャレなお守り」などと紹介されているが、授与品頒布（通信販売）のためのウェブサイトは設けていない¹⁰⁾。

筆者が宝満宮竈門神社を訪れたのは12月初旬の平日で、小雨が降る天候だったが、境内の紅葉が見頃だったこともあり参拝者は多かった。参拝者の年齢層は幅広い。再会の木・愛敬の岩で祈願する人やコスプレで参拝する人はみられなかったが、『鬼滅の刃』のキャラクターを描いた絵馬はいくつか確認できた（図13-8）。

7. おわりに

本章で取り上げた太宰府天満宮・宗像大社・宮地嶽神社・宝満宮竈門神社は、パワースポットブーム以前から霊験あらたかな神社として知られ、観光地としても有名である。近年、これらに対して新たにパワースポットとしての意味づけがなされるようになった。これにより、従来みられなかった新たな信仰形態の萌芽が生じている。宮地嶽神社や宝満宮竈門神社は、アイドルやアニメのファンの「聖地」にもなっていた。

しかし神社からすれば、これらの意味づけは外部からなされるものであり、神社が従来行ってきた宗教空間（聖域）としての意味づけとは異なる。そのため、近年のパワースポットブームに対しては一様に静観の立場をとっている。どの神社も、みずから境内をパワースポットやアイドル・アニメの「聖地」と称することはない。観光地と呼ばれることに拒否感を示す神社もある。

一方で、各神社は観光客やパワースポット、アイドル・アニメの「聖地」という感覚で参拝する人々であっても、マナーに著しく反しない限り、拒否していない。各神社は境内の空間に関して、みずからの見解に基づかない意味づけをある程度許容している。また、インターネットで授与品の通信販売を展開したり、カラフルな授与品を開発したりしている。しかし、これらを

10) ただし FAX やメールでの購入申込は受け付けている。

「商品」として扱うことに躊躇しているところもある。

このように各神社では「軽い宗教」を選択的に受け入れているが、全面的に受け入れたわけではない。市場への参入もみられるが、総じて限定的である。こうした神社の姿勢を踏まえれば、今後「宗教と観光の融合」が一挙に進むとは考えにくい。境内地は聖域として神社がみずから管理し、祭祀の存続のためにこれを用いる。パワースポットへの訪問者や観光客の受け入れも神社を維持していく手段に過ぎず、必要以上に観光客を増やす必要はない。観光産業・文化産業の営利企業とはこの点で異なる。

今後は仏教寺院なども視野に入れ、宗教と観光の違いに留意しながら、引き続き伝統宗教による社会変化への対応と宗教空間の変容について考えたい。

謝辞

聞き取りに応じてくださった太宰府天満宮の松大路信潔様、宗像大社の宗像崇史様、宮地嶽神社の洪江公誉様・綾部恵子様、宝満宮竈門神社の馬場宣行様（順不同）に篤く御礼申し上げます。本研究は福岡大学の研究助成（課題番号：214001）による。

参考文献

- 岡本亮輔（2015）『聖地巡礼—世界遺産からアニメの舞台まで—』中央公論新社
- 岡本亮輔（2017）「パワースポットめぐり—伝統と観光が衝突する場所—」高山陽子編『多文化時代の観光学—フィールドワークからのアプローチ—』ミネルヴァ書房、71-86
- 岡本亮輔（2020）「ジェネリック宗教試論—脱信仰化する現代宗教—」山中弘編『現代宗教とスピリチュアル・マーケット』弘文堂、27-46
- 山中 弘（2016）「宗教ツーリズムと現代宗教」『観光学評論』4-2、149-159
- 山中 弘（2017）「消費社会における現代宗教の変容」『宗教研究』91-2、255-280
- 山中 弘（2020）「序論：現代宗教とスピリチュアル・マーケット」山中弘編『現代宗教とスピリチュアル・マーケット』弘文堂、1-23